



大津市報道資料
市政記者各位

お問い合わせ先

担当者	保 健 予 防 課 担 当 : 井 上 ・ 山 田				
連絡先	077-522-7228		内線	18430	
総合計画 位置付け	基本 方針	基本 政策	施策	取組の 方向性	主な 取組
	1	3	8	2	2

令和7年4月10日

大津市内における麻しん患者の発生について

令和7年4月9日（水）、大津市内の医療機関から麻しん発生の届出があり、滋賀県衛生科学センターで遺伝子検査を実施した結果、本日4月10日（木）、麻しんと確定されました。

本公表は、感染症の発生及びまん延防止を図るため、市民の皆様へ注意喚起を行うものです。

報道機関の皆様におかれましては、感染症法の趣旨に則り、個人情報保護の観点から患者及び患者家族等が特定されないことがないよう、格段の御配慮をお願いします。

1 患者の概要

40代 女性 大津市在住

2 患者の経過

4月 5日（土） 悪寒、頭痛

4月 6日（日） 悪寒、頭痛、発熱

4月 8日（火） 悪寒、頭痛、発熱、咽頭痛、発疹

4月 9日（水） 市内医療機関受診、発生届受理

4月10日（木） 滋賀県衛生科学センターにおいて検査を実施し、麻しんウイルス陽性判明

3 感染可能期間に利用した施設

4月4日（金）16時～16時半頃 フレンドマート大津京店

※ 上記施設への直接のお問い合わせはお控えください。

4 市民の皆様へ

麻しんの潜伏期間は10～12日（最大21日）のため、上記施設を同時刻に利用し、4月25日までの間に発熱・発疹など、麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に連絡のうえ、速やかに受診してください。

受診の際にはマスクを着用のうえ、感染拡大防止のため公共交通機関等の利用は控えてください。

麻しんは感染力が強く、空気感染するため、手洗い・マスクのみでは予防できません。流行地域への渡航の際は、事前に予防接種歴を確認してください。

また、MR（麻しん風しん混合）ワクチンの定期接種対象者である1歳及び就学前1年間に該当する児には、早期にワクチン接種することをお勧めします。

<参考>

令和2年以降の滋賀県における麻しん患者の発生状況 （単位：人）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
滋賀県	1 (0)	1 (0)	0	0	1 (0)	2 (1)

※（ ）内は本市患者数



資料

麻疹（はしか）とは

麻疹ウイルスの感染による発熱と発疹等を伴う急性の感染症です。ウイルスの感染力は非常に強く、空気中を漂うウイルスを吸い込むだけでも感染します。体育館ほどの広い空間であっても、免疫の無い状態で麻疹の人と空間を共有すれば、90%以上の確率で感染・発症するとみられています。現在、麻疹に有効な治療薬は無く、対症療法をしながら治癒を待つ事になります。

症状について

感染してから、通常 10～12 日程度（最大 21 日）の潜伏期間があります。38 度前後の高熱、咳、鼻汁、くしゃみ、倦怠感、目やに、眼の充血などの症状が出現した後、一旦の解熱とともに頬粘膜に白いぶつぶつ（コプリック斑）が出現します（カタル期：数日）。その後、再び 39～40 度の高熱となり、全身に発疹が出現します（発疹期：4～5 日）。解熱した後、発疹は消失し、色素沈着がしばらく残ります（回復期）。肺炎や脳炎、中耳炎、心筋炎といった合併症を起こす頻度は高く、麻疹による乳児死亡例の 60%が肺炎に起因しています。脳炎を起こすと約 15%が死亡、20～40%の人が重い後遺症を残し、思春期以降の死因では脳炎が最も多くなっています。麻疹治癒後数年～10 年程度経過してから発症する亜急性硬化性全脳炎（SSPE）は極めて重篤で、致死率はほぼ 100%といわれています。

予防について

発熱の前日から、解熱後 3 日を経過するまで感染性があり、カタル期が最も感染力の強い時期といわれています。空気感染、飛沫感染、接触感染で感染が広がります。麻疹ワクチンを接種することが有効な予防方法です。